

トップメッセージ

創業110周年を迎えるazbilグループは、
これからも「人を中心としたオートメーション」の探求を通じて、
お客様の課題解決により貢献できる企業集団を目指します。

代表取締役会長

小野木 聖二

代表取締役社長

曾禰 寛純

グループ理念

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、
地球環境に貢献します。

そのために、私たちは、お客さまとともに、現場で価値を創ります。
私たちは、「人を中心とした」の発想で、私たちらしさを追求します。
私たちは、未来を考え、革新的に行動します。

私たちazbilグループは、2016年に創業110周年を迎えます。1906年の創業以来、「計測」と「制御」の技術を追求し、独自のソリューションをお届けしてきました。創業100周年の節目(2006年)では、「先進技術によって人間を苦役から解放する」という創業者山口武彦の精神を引き継ぎ、これからの時代に求められる提供価値を踏まえ新たな理念として「人を中心としたオートメーション」を掲げ、この価値観を共有するグループシンボル“azbil”を制定しました。2012年には社名を「山武」から「アズビル」に変更し、多くの方々にazbilブランドに親しんでいただけるよう努めてまいりました。

私たちは現在、オフィスや生産の現場、生活といった場面で「ビルディングオートメーション」「アドバンスオートメーション」「ライフオートメーション」の3つの事業を展開しています。また、2016年度(2017年3月期)を最終年度とする中期経営計画では、①技術・製品を基盤としたソリューション展開で「顧客・社会の長期パートナー」となる、②地域の拡大と質的な転換による「グローバル展開」を進める、③体質強化を継続的に実施できる「学習する企業体」への組織的な変革を図る、の3つを基本方針に掲げ、取り組んでいます。

そして、IoT、ビッグデータ、AIといった技術革新への対応、及び長年にわたり現場で蓄積したノウハウやazbilグループならではのサービスを組み合わせたソリューション力の強化を図っています。

こうした中、2015年度(2016年3月期)は、首都圏再開発や東京オリンピック関連需要のほか、グローバル展開やエネルギーマネジメント、安全・安心ニーズといった市場機会を捉え、併せて事業構造改革と企業体質強化を進め、3期連続の増収・増益を達成いたしました。

山武で100年、azbilで10年、合わせて110年。azbilグループはこれからも、人々の喜びや充実感に満ちた幸せを創造する「人を中心としたオートメーション」の探求を通じて、お客様の現場で、お客様とともに新しい価値を創造し、様々な課題解決に貢献できる企業集団を目指して邁進してまいります。

2016年7月

アズビル株式会社
代表取締役会長

小野木 聖二

アズビル株式会社
代表取締役社長

曾禰 寛純

特集: azbilの110年とこれから

YAMATAKEで100年、azbilで10年。合わせて110年。
アズビル株式会社は、2016年に創業110周年を迎えます。



人間の苦役からの解放 1906-1978

日本の工業社会が立ち上がろうとしていた1906年、農商務省特許局で欧米工業機械の水準の高さを痛感した山口武彦により、当社は欧米機械工具の輸入商社「山武商会」として産声をあげました。その後、日本の工業化が急速に進む中、「人が行っていることでも、機械化などによって代えられることがあれば、それを模索し、少しでも人を苦役から解放したい」との創業者精神を原動力に、総合オートメーションメーカーへと進化を遂げました。

Savemation 1978-2006

第一次石油危機を契機に、世の中の要請を踏まえて創業者精神を再解釈し、「Automation」(計測と制御の技術)で「Save」(省エネルギー、省力、安全)に貢献する姿勢を端的に示すため、1978年に当社独自の標語『Savemation』を企業理念として制定しました。

いつの時代も「人を中心としたオートメーション」で人々の幸せを第一に考えてきたazbilグループは、これからも計測と制御の技術のもと、より一層の価値創造を進め、皆様とともに歩んでまいります。



azbil 人を中心としたオートメーション 2006～

創業から100周年を迎えた2006年、機械を制御するという発想から人の充足感をつくるという発想へ転換し、「人を中心としたオートメーション」で、人々の『安心、快適、達成感』を実現するとともに、地球環境に貢献します」を新しいグループ理念としました。同時にオートメーション技術で様々な現場の課

題解決に貢献するグループシンボル『azbil』(automation・zone・builder)を制定し、2012年には社名を「アズビル株式会社」へと変更しました。そして現在、このグループ理念のもと、世界トップクラスのオートメーション企業と評価される存在を目指しています。

「計測と制御」というテクノロジーで、 時代を超え、持続可能な社会の発展に貢献

1906年、はじめは創業者・山口武彦が起業した山武商会でした。以来、110年にわたり時代とともに変化するお客様と社会の課題を捉え、「計測と制御」のテクノロジーによる製品・サービスを提供し続けることで、持続的な社会の発展に貢献してきました。その過程で、グループ規模は売上高約2,600億円にまで拡大し、建物、プラント・工場、暮らしの中へと、事業フィールドも大きな広がりを見せました。

1900

1906

欧米工作機械類の輸入
商社として山武商会を設立



創業者 山口武彦

1913

十文字式平円板型翼車型水
道メータを製造



1933

工作機器輸入商社から工作
機械及び計器の製造販売を
行うメーカーへと変身

1936

日本初の自動調節弁国産化
に成功



1950

1953

米国有数の制御機器メーカーで
あるHoneywell Incorporated
と戦後初の50対50の資本提携
(~1990)

1966

山武ハネウエル㈱へ社名変更

1975

独自開発の矩形波励磁方式を世
界で初めて採用した電磁流量計
MagneW™シリーズを販売開始



1975

Honeywell Incorporated
と分散型総合制御システム
TDCS™2000を共同開発



1981

保安機能を搭載したマイコン
ガスメータの共同開発に参画



1982

ビル総合管理システム
SAVIC™を独自開発



1984

遠隔監視による総合ビル管理
サービス (BOSS-24™) を開始



1985

成熟技術と革新技術を融合
した次世代調節弁CV3000
シリーズを開発



1985

デジタル通信技術を駆使した
半導体複合センサ式差圧・
圧力発信器DSTJ™3000
シリーズを開発



1991

空調用の二方電動調節弁
ACTIVAL™を販売開始



1995

オープンな小規模計装システム
協調オートメーションシステム
Harmonas™を販売開始



110年での変化

	1966 山武ハネウエル 社名変更	1998 山武 社名変更	2016 創業110周年
売上高(百万円)	12,517	178,896	260,000
営業利益(百万円)	1,327	7,458	19,000
自己資本(百万円)	2,284	112,353	155,005

(注1) 1966年は単体、1998年・2016年は連結での実績

(注2) 2016年の売上高・営業利益は計画値、自己資本は2016年3月末現在の実績

2000

1995

マイクロプロセッサ搭載のスマート・バルブ・ポジションナ SVP3000を販売開始



1996

気体用熱式フローセンサ、マイクロフローセンサ™販売開始。マイクロチップ型流速センサの開発・量産に成功



1998

1997年にHoneywell Incorporatedとの包括的提携契約を事業ごとの提携契約に変更し、翌年(株)山武へと社名変更

2000

建物向けリモートメンテナンスサービスBESTMAN™ EVを展開



2004

調節弁メンテナンスサポートシステムを販売開始



2006

グループシンボル“azbil”を導入

2009

高度な通信・制御機能を持つ計装ネットワークモジュールNXを販売開始



2009(海外)・2012(国内)

azbilグループ各社の社名を「アズビル」を冠するものに変更

2012

エネルギー管理ソリューションに係る製品、サービスの総称をENEOPT™に統一



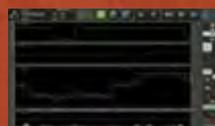
2015

細かな範囲で気流を制御し、快適な空調を実現するセル型空調システム ネクスフォート™を販売開始



2015

生産現場の操業ビッグデータを活用したオンライン異常予兆検知システム Big EYES™を販売開始



2016

製造装置の予防保全に貢献する新世代グラフィカル調節計を販売開始



azbilのオートメーションが描く未来

「人を中心としたオートメーション」。人と技術が協創する豊かな社会を描いていくという未来に対する想いを、私たちはこの言葉に込めています。「お客様と課題を共有していく現場」を起点にして、他社には真似できないような「独自性のある技術や製品、サービス」を追求し、新しい価値を社会に提供するために、私たちは果敢に挑戦していきます。

時代とともにオートメーションに対するニーズは変化しています。azbilグループは、成長事業領域として「生産及び執務居住空間での次世代ソリューション(オフィスや工場・研究施設などの生産設備あるいは居住空間等で求められる高度で付加価値の高いソリューション)」「エネルギーマネジメントソリューション」「安全・安心ソリューション」を定めています。これらの領域は相互に関連し、ライフサイクルの時間軸でサポートが要求される分野であり、オートメーションという横断的な技術を新たに活かすことのできる分野です。私たちは、こうした成長領域で生まれる様々なニーズに対してIoT(Internet of Things)やビッグデータなどの技術革新に対応して進化させた新たな制御技術、製品、サービスを開発し、これらを組み合わせでお応えしていきます。

メーカーとしてだけでなく、エンジニアリングやサービス、コンサルティングも行うパートナーとして、お客様と課題を共有する現場を持つことのできるazbilグループだからこそ、“人と技術の協創”により最先端の技術トレンドと現場のニーズを反映した独自の製品、サービスをお届けすることができると自負しています。

1906年の創業から110年。過去から受け継いだものは、今のazbilグループを支える「技術」、未来のために行動する「精神」、お客様とazbilグループがつながる「現場」です。私たちは、いつもお客様とともに歩むことを大切にしています。



独自性のある製品と時代に応えるソリューション

微小液体流量計

azbilグループは、長年にわたりMEMS(Micro-Electro-Mechanical Systems)技術を用いた革新的なセンサを数多く生み出し、それらを搭載した製品は様々な産業分野で欠かせない存在となっています。現在、熱式計測技術を応用し、独自のセンサ構造を考案し、今まで計測することが困難だった液体の微小流量*を高精度に測ることのできる新たな流量計の製品化に取り組んでいます。半導体・電気電子市場等での応用が期待されます。※1分間に100mL以下の微小な流量



独自性のある製品と時代に応えるソリューション

クラウドサービス

ビル向けクラウドサービスは、お客様の建物のシステムとクラウドセンターを結び、建物データを一元管理することで、利用者がどこからでも複数棟のデータにアクセスできるようになりました。また、エネルギーの見える化、省エネ分析だけでなく、空調・照明の遠隔操作といった利便性を高める機能、蓄積データからモデリングを行い最適制御する機能、電力需給切迫時に自動的に電力消費を抑える機能等、クラウドならではの特性を活かした機能を備え、時代に応えるソリューションとして注目されています。



遠隔監視
サービス

エネルギー
マネジメント
ソリューション

クラウド
サービス

時代に
応える
ソリューション

お客様との
新たな価値創造

お客様との
新たな価値創造

お客様との協創の場

藤沢テクノセンターとazbil Techno Plaza

azbilグループの研究開発拠点「藤沢テクノセンター」は、研究・開発活動のさらなる効率化を目指して、新たな開発環境と先進的な実験作業環境の整備を進めています。同時に、グループの省エネモデル事業所として最先端の技術を取り入れ、お客様にも体感していただける「エネルギーマネジメントソリューションサイト」としての整備も行っています。加えて、「お客様とともにその未来を創りたい」との想いで、azbil Techno Plazaを藤沢テク



藤沢テクノセンター



azbil Techno Plaza

ノセンター内に設立しました。同プラザではazbilグループが展開するBA事業、AA事業、LA事業の最新の取組みや、IoTを活用した新しい提案等をインタラクティブにご覧いただき、最先端のオートメーション技術に触れていただくことができます。研究開発拠点としてazbilグループを支える藤沢テクノセンターに新たに誕生したazbil Techno Plazaが、お客様との協働・協創の場となることを目指しています。



代表取締役社長

曾禰 寛純

Q1 2015年度をどのように総括していますか。

増収・増益基調を維持しつつ、事業構造の変革と体質強化をさらに進展させました。

国内では初のマイナス金利政策が導入されましたが、製造業は設備投資への慎重姿勢を崩さず、海外では中国をはじめとする新興国の経済成長が減速する中、2015年度(2016年3月期)のazbilグループの業績は、売上高・営業利益ともに増加し、3期連続の増収・増益を達成することができました。

売上面では、アドバンスオートメーション(AA)事業が設備投資の低迷から伸び悩み、ライフオートメーション(LA)事業は前年度における健康福祉・介護分野の事業譲渡の影響(約34億円減)により減少しました。しかし、首都圏での都市再開発や東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた建設需要に加えて、省エネルギー化を進める既設建物の堅調な改修・サービス需要を背景としたビルディングオートメーション(BA)事業の増収により、連結売上高は前年度比1.0%増の2,568億円となりました。

損益面では、新製品投入に向けた研究開発費の増加や新基幹情報システムの稼働とこれに伴うジョブ損益管理方法の統一などで一時的な費用が発生しましたが、増収効果及びのれん償却費用の減少、LA事業の利益が構造変革の成果で改善したことにより、連結営業利益は前年度比11.7%増の171億円となりました。また、連結子会社であるアズビルテルスター有限会社に係るのれん減損損失(残額の一括償却)を約30億円計上しましたが、親会社株主に帰属する当期純利益は前年度比15.3%増の82億円となりました。

2015年度は、期初の業績計画には届きませんでしたが、全体として増収・増益基調を維持しながら、事業構造の変革と企業体質の強化をさらに進展させ、今後の成果につながる施策に道筋をつけることができたと考えています。

2016年度は、売上高・営業利益で4期連続の増加を実現し、2017年度以降の持続的な成長を鮮明にしたいと考えています。

Q2

創業110周年、azbilを制定して10年目という節目の年である2016年度を、どのように感じていますか。

azbilグループならではの価値提供を、これまで以上に積極的に市場に伝えることが重要だと感じています。

「日本の勤労者を辛く過重な労働(=苦役)から解放したい」という創業者・山口武彦の志によって、azbilグループの前身である欧米機械工具の輸入商社「山武商会」は、1906年に設立されました。そして戦後、オートメーション(計測と制御の技術)という革新的な概念をいち早く取り入れ、機器の国産化と自主開発を加速するとともに、石油や化学といった分野のプロセス制御や大規模建物の空調制御で日本の経済成長に広く貢献してきました。

さらに提供価値も、オートメーションの探求によって「人間の苦役からの解放」から「人々の充足感をつくる」という発想に進化し、創業100周年を迎えた2006年に、「人を中心としたオートメーション」をキーワードとする新たなグループ理念を制定しました。この言葉には、人を中心に据えて人と技術が協創するオートメーションの世界の実現に注力し、社会に貢献するという想いが込

められています。現在の社名「azbil(automation・zone-builder)」は、この時にグループシンボルとして導入されたものです。

もっとも、このグループ理念を制定した当初、機械制御を連想しがちな「オートメーション」と「人を中心に」という組み合わせが意味することが、なかなか理解していただけませんでした。しかしこの10年、azbilグループが建物、製造設備、日常生活の現場でそれを実践してきた結果もあってと考えますが、今では製造業だけでなく、様々な分野において人とオートメーション技術が協調し、新たな価値を生み出すことが違和感なく語られるようになってきました。

こうしたオートメーションの先端的な変化を捉えて取り組んできたという自負のもと、azbilグループならではの価値提供をこれまで以上に積極的に市場に伝えることが重要だと感じています。

Q3

この大きな節目に位置付けられた年に最終年度を迎える 中期経営計画の進捗はどのような状況ですか。

刻々と変化する事業環境と新たな課題に対応し、変革と体質強化を着実に推進しています。

2016年度(2017年3月期)をゴールとする4か年中期経営計画では、「人を中心としたオートメーション」の理念のもと、技術・製品を基盤にソリューション展開で「顧客・社会の長期パートナー」となること、地域の拡大と質的な転換で「グローバル展開」を進めること、さらにその具現化と体質強化を継続的に実施できる「学習する企業体」へと組織的な変革を進めること、の3つの基本方針を掲げています。

その一方で、事業環境は刻々と変化し、東京オリンピック・パラリンピック開催が決定した反面、国内の設備投資は低迷が続き、世界経済を牽引していた新興国の成長も減速し始めています。地球環境保全などの国際的な課題認識の高まりや、インターネット環境の進化に伴う技術革新も見られます。

こうした中、BA、AAの両事業が成長領域とする海外での事業拡大を確かなものとする、首都圏再開発、オリンピック関連の需要が落ち着く2020年以降に備えること、国内外の事業環境、市場構造の変化に対応できる販売・生産等の体制を整備すること、第3の事業軸であるLA事業の利益創出体質を造り込むことなど、新たに浮上した課題も含めやるべきことが明らかになり、事業変

革と企業体質の継続強化を着実に推進しています。

2015年度はBA事業において、首都圏で活況を呈する新設・既設の両分野の需要に対応し、よりお客様に密接した展開をするため、大崎、霞が関、虎ノ門に事業所を新設し、品川事業所の営業・サービス機能を移転しました。そして、将来にわたる建物のライフサイクルでの事業機会を見据えた安定収益基盤の拡大を進めています。2016年度は海外向け新製品を投入し、グローバル展開にも一層注力する計画です。

AA事業では、成熟産業分野で事業効率性を高めるとともに、成長が見込まれるHA/FA*分野や海外市場に人材を含むリソースのシフトを一段と進めました。さらに2016年度は、IoT(Internet of Things)やビッグデータ等、世の中の技術トレンドの大きな変化を捉え、3つの事業単位で、市場環境に合わせた事業モデルの創出や高収益体質への変革を推進します。

加えて、次期中期経営計画を念頭に、研究開発体制の強化、生産体制の再編にも取り組んでいきます。

* HA/FA(Hybrid Automation/Factory Automation):電気電子・半導体、自動車、化学(下流)といった先端産業や食品・薬品などの内需型産業及びこれら市場向けの製造装置産業向けのオートメーションを「ハイブリッドオートメーション/ファクトリーオートメーション(HA/FA)分野」と称し、拡大に取り組んでいます。

事業変革、企業体質の継続強化

事業セグメント	BA事業	AA事業	LA事業
	<ul style="list-style-type: none"> 国内BA事業基盤強化(首都圏再開発、オリンピック需要取込み) エネルギーマネジメントビジネスの強化(オリンピック後の反動への備え) 海外事業のライフサイクル化(利益創出モデルの確立) 	<ul style="list-style-type: none"> 注力領域(HA/FA市場)へのシフト、体制強化 成熟領域(PA市場)のサービス事業高付加価値化 商品開発力強化 海外事業のインフラ強化(開発、生産、営業、サービス) 	<ul style="list-style-type: none"> アズビル金門事業基盤整備(国内工場再編、新製品) アズビルデルスター構造変革(事業再編、子会社統廃合) 全館空調分野構造改革(利益体質強化) アズビルあんしんケアサポート株式譲渡
	グループ内人材再配置(成熟領域の効率化と成長領域へのシフト)		
横断機能	グローバルでのリモートメンテナンスを含むサービス基盤整備・体制構築、グローバル顧客向け現地開発力強化、グローバルでの最適生産体制		
	<ul style="list-style-type: none"> 北米技術開発拠点設立(アズビル北米R&D) 藤沢テクノセンター研究・開発拠点整備開始 	<ul style="list-style-type: none"> タイ新工場、海外生産体制強化(アズビルプロダクションタイランド、アズビル機器(大連)) 湘南・伊勢原工場の統廃合 	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔サービス/IT基盤整備 サウジアラビア生産工場/各地域メンテナンスセンター整備
経営管理	<ul style="list-style-type: none"> 全社基幹情報システム稼働(第1次2015年5月~) 確定拠出年金への移行(2015年6月~) 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外人材最適配置の促進、人材育成プログラム充実 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルでのガバナンス、コンプライアンス強化

Q4

LA事業の位置付けと、ライフサイエンスエンジニアリング (LSE) 分野の収益性確保について教えてください。

LSE分野での業績回復の道筋をつけ、黒字転換したLA事業を全体で持続性と安定性を備えた第3の事業軸へ創り上げます。

azbilグループは長年、「建物」のオートメーションを進めるBA事業と「プラント・工場」のオートメーションを進めるAA事業の2本柱で業容を拡大してきましたが、2006年にガスメータや水道メータを手掛ける現:アズビル金門株式会社を子会社として迎え、健康福祉・介護、住宅用全館空調システムを含む「ライフライン・生活」領域でオートメーションを進めるLA事業を第3の柱として新設しました。

さらに2013年にライフサイエンスエンジニアリング (LSE) 分野でユニークな技術・商品を持つ現:アズビルテルスター有限会社を子会社とし、「ライフサイエンス」領域を加えてLA事業の業容をBA、AAに次ぐレベルに拡充し、同時にグローバル展開も加速しました。

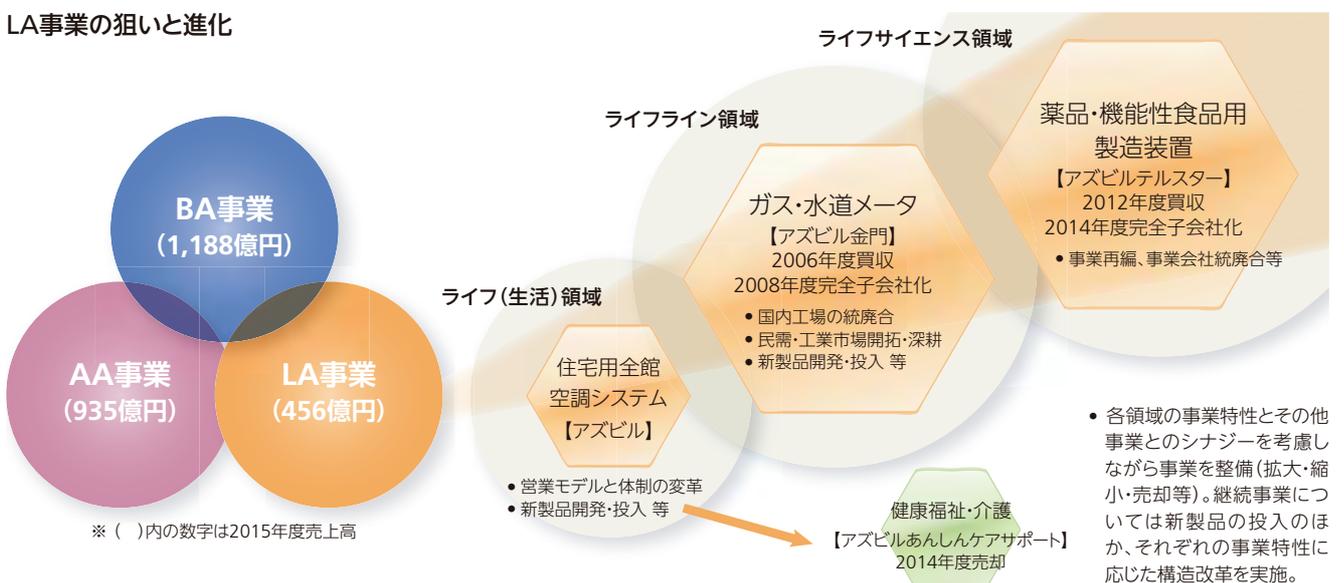
LA事業の育成にこだわりを持っているのは、人を中心としたオートメーション分野にフォーカスしつつも、単一市場への過度な集中を避け、異なる市場構造を持つ複合的な事業ポートフォリオを構築し、長期的にazbilグループの持続性と安定性を確保することを目的としているからです。

しかしながら足元でLA事業は、新規投資やM&Aに伴うのれん償却が先行し、厳しい事業環境にも見舞われていま

す。そこで第3の事業軸として一定の利益を確実に創出できる体質とするため、LA事業を構成する各領域の事業性やグループ全体とのシナジーを考慮して抜本的な見直しを行い、2014年度(2015年3月期)に健康福祉・介護分野から撤退しました。そして、ライフライン、ライフサイエンス、ライフ(生活)の領域における選択と集中を明確にしています。さらに、生産効率化のためのガスメータ生産工場の統廃合、住宅用全館空調の営業モデルと体制の変革、LSE分野における不採算子会社の清算や人員削減といった大胆な構造改革を実施する一方、新製品の投入を積極化し、LA事業は2015年度で黒字転換を果たしました。

なお、アズビルテルスターグループにおいて中核となるスペインの事業会社の業績は改善傾向にありますが、オランダとブラジルの子会社の業績悪化の厳しさを踏まえ、のれんの残高約30億円について減損損失として一括計上しました。これにより、将来において見通せるリスク要因に対処し、併せて増資引受けを承認、同社の財務体質を改善させます。2016年度以降、LSE分野ではグローバルな製薬・機能性食品市場を基盤に業績回復を確実なものとしていきます。

LA事業の狙いと進化



Q5

研究開発体制の強化と国内生産拠点の再編について説明してください。

お客様との新たな接点の場ともなる研究開発拠点の集約と機能強化を図り、生産拠点はグローバルベースで効率化を推進します。

2017年度(2018年3月期)以降、次期中期経営計画の新たな布石として、国内における研究開発体制の強化と生産体制の再編を決めました。いずれも2019年度(2020年3月期)の完了を目指しています。

既に研究開発は、日・米・欧の3局で、お客様に密接してソリューション提案につなげる体制を整備しましたので、次の段階として中核の国内拠点で新たな取組みを開始します。具体的には、藤沢テクノセンター(神奈川県藤沢市)にazbilグループの研究開発関連のリソースを集約するとともに、先進的な開発環境と実験作業環境を整備し、研究・開発活動の効率化を図り、新製品開発を加速していきます。

同時に、藤沢テクノセンターは省エネソリューション提案のためのショールーム機能を併せ持つ「エネルギーマネジメントソリューションサイト」としての機能を強化します。「人を中心としたオートメーション」が認知されてきたといっ

ても、最先端技術や新製品の効果を実感していただくのは容易ではありません。そこで当センターを、azbilグループの技術の可能性を体感していただきながら、ビジネスや協創に結び付けるためのお客様との新たな接点の場にしたいと考えています。

国内生産体制の再編については、神奈川県湘南、伊勢原工場を1工場に集約し、高付加価値製品をグローバルに供給するマザー工場としての位置付けを色濃くするとともに、中国、タイの生産工場と合わせ、国内外で生産ラインの最適再配置を行います。

これら研究開発拠点の集約と生産体制再編に伴う総投資額は3年間で約80億円を予定しており、エネルギーマネジメントをはじめとする各種製品の開発・強化及び最終的に年間20億円規模での固定費低減に寄与するものと見込んでいます。

Q6

中国をはじめとする新興国の経済成長が減速していますが、グローバル展開の進展と今後の方向性について教えてください。

ハード面の整備は一定の進捗を見ているので、今後はグローバル人材の育成・確保が課題であると考えています。

足元では世界経済の不透明感が強まっていますが、東京オリンピック・パラリンピック開催後の事業環境を考えますと、地域的・質的に事業拡大の余地を多分に残している海外市場での収益基盤構築が、今後のazbilグループの成長エンジンであることは明白です。

既に「地域の拡大」として、中国、その他アジア、北米、欧州から中東、中南米と現地法人を設立し、営業及びサービス拠点の整備を積極的に進めてきました。「質的な転換」では、BA事業において日本と同様に高品質の省エネ提案やメンテナンスサービスを提供できる画期的なリモートメン

テナンスのインフラを整備しました。さらに海外市場向けのBAシステム等、グローバル市場での展開を見据えた新製品の投入も開始しました。

このようにハード面の整備は一定の進捗を見ているので、今後はソフト面の整備、すなわち、ローカルのお客様との接点を増やせる人材、また、海外子会社の経営管理を担える人材の確保がポイントになってきます。そこで2012年に設置した「アズビル・アカデミー」で、こうしたグローバル人材の育成に注力しています。

2015年度の海外売上高は、489億円、海外売上高比率

は19.1%と、ほぼ中期経営計画で目標とする20%水準にあります。2016年度以降は、グローバル人材の育成を推進しながら、成熟した日本市場で求められている「安全・安

心、快適、環境・省エネ」を実現する高度なソリューションを海外に広げていきます。

Q7

高水準の株主還元を実現していますが、株主への利益還元と財務政策について教えてください。

増益見通しと事業構造変革の成果を反映し、株主の皆様への一層の利益還元を進めるべく、配当水準のさらなる向上を図っていきます。

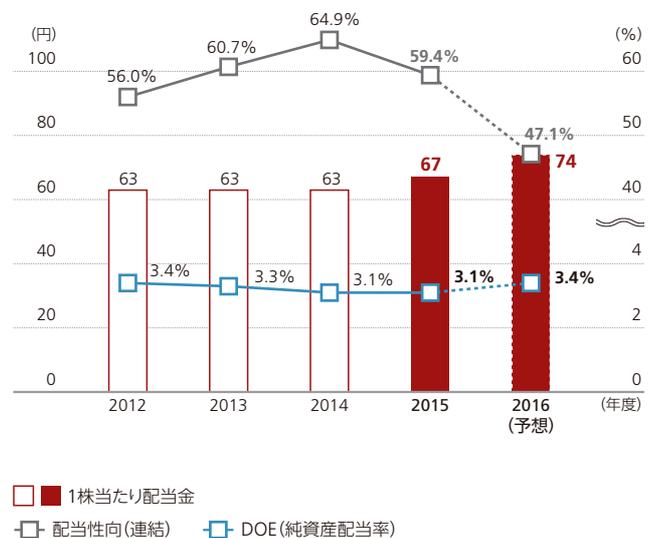
株主還元につきましては、持続的成長及び企業価値向上を目指し、健全な財務基盤を維持しながら、ROE(自己資本当期純利益率)等の資本効率の向上に努め、DOE(純資産配当率)の水準を考慮して、積極的かつ安定した配当を維持していくことを基本方針としています。

2015年度においては、60万株の自己株式取得(取得期間:2015年5月14日から同年6月8日まで)に加え、公表の通り中間配当と合わせて1株当たり67円の配当支払いを行いました。2016年度につきましては、今後の増益見通しと事業構造変革、収益体質強化の取組みにおける成果を反映し、株主の皆様への一層の利益還元を進めるべく普通配当を2円増配し、1株当たり年間69円の配当とさせていただくとともに、2016年に当社創業110周年及び新名称azbil導入10周年を迎えるにあたり、長期にわたる株主の皆様からのご支援に対する感謝の意を込めて1株当たり5円の記念配当を実施させていただく予定です。この結果、2016年度は1株当たり年間74円の配当を予定させていただきます。

当社といたしましては、株主の皆様への積極的な利益

還元を継続していくためにも、長期目標としてROE10%以上を掲げ、資本効率の向上に向けて事業構造変革等に継続的に取り組むとともに、M&Aを含む将来の成長投資に加えて、大規模な自然災害の発生等、不測の事態でも事業を継続し、供給責任を果たすことのできる健全な財務基盤の維持に引き続き取り組んでまいります。

1株当たり配当金の推移



Q8

CSR経営をどのように実践していますか。

基本テーマを定め目標を明確にし、「基本的CSR」と「積極的CSR」を実践しています。

azbilグループは、社会に存立する上で果たさなければならぬ基本的責務の遂行を「基本的CSR」とし、本業を通じた社会への価値提供や自主的な社会貢献を「積極的CSR」としています。それら2つの側面からCSRを捉え、コンプライアンス、リスク管理(品質・製造物責任や防災・BCP対応)、人を重視した経営、地球環境への貢献、グループ経営とガバナンス体制の充実、社会貢献を基本テーマとして目指すゴールを明確にし、すべてのステークホルダーを対象に実践しています。

元々「人間の苦役からの解放」というDNAを100年以上にわたり受け継いできたazbilグループでは、グループ理念「人を中心としたオートメーション」と社会貢献とが矛盾なく同期しています。つまり、従業員の日々の活動と世の中への貢献とのつながりがシンプルに理解できます。これは従業員のモチベーションにとっても、意義があるものと思っています。

azbilグループのCSR経営

すべてのステークホルダーに向けての「人を中心とした」azbilグループの展開

顧客への提供価値の向上
顧客のライフサイクルパートナー

株主重視の経営と
健全なガバナンス



雇用など地域社会の一員としての貢献
グローバルに環境や安全などへ
本業を通じて貢献

グループ理念の実践を通じて
創造的な活動と成長の場を提供



Q9

持続的成長と企業価値向上に向けたガバナンス体制の充実について教えてください。

ガバナンスを適切に機能させる独自の制度と、それを株主・投資家にご理解いただくための体制の両面で強化を図りました。

当社は、既に2007年に社外取締役を選任し、ガバナンス体制の強化に取り組んできました。そして、2014年には取締役全体の3分の1となる3名の社外取締役を置き、さらに2015年度は、コーポレートガバナンス・コードの適用を契機として、これまで以上に「株主・投資家との建設的な対話」を実践し、ガバナンス体制がしっかり機能していることを理解いただくとともに、外部の意見を経営にフィードバックする機能の強化として、コーポレートコミュニケーション担当役員を設置しました。

制度面では、取締役会規則並びに関連規程・規則の見

直しを進め、社外役員の独立性判断基準の制定や、指名・報酬委員会に占める社外取締役の員数が代表取締役を上回る人数とする旨を明文化するなど、独自に様々な整備を行いました。さらに、これらを適切かつ効率的に実践するために、コーポレート・ガバナンス運営要綱も定めました。

実践面では株主・投資家との「対話」を促進する一方、海外ビジネス、企業法務、投資運用会社で豊富な経験を有する社外取締役との意見交換会を頻繁に開催し、グローバル展開や新事業の探索、あるいは事業再編や撤退の決断に際し、有益なアドバイスを受けています。

Q10

中期経営計画の最終年度(2016年度)の業績見通しについて教えてください。

4期連続の増収・増益を実現し、持続的な成長を鮮明にしたいと考えています。

製造業の設備投資の低迷と新興国の経済成長の減速から中期経営計画策定時当初の目標達成は難しい状況ですが、2016年度は大変革の節目であり中期経営計画の成果をお見せする年度でもあるため、売上高・営業利益で4期連続の増加を実現し、2017年度以降の持続的な成長を鮮明にしたいと考えています。

国内で堅調な事業環境が続くBA事業の伸長に加え、LA事業における構造変革の成果を見込んでおり、AA事業において国内外の製造業設備投資の動向や為替の影響から厳しい事業環境が予想されるものの、連結売上高2,600億円(前年度比1.2%増)、連結営業利益190億円(前年度比10.9%増)を計画しています。

ビルディング オートメーション(BA)事業

ビルディングオートメーションシステムとして、アプリケーションソフト、コントローラ、バルブ、センサまでのフルラインナップを自社にて開発、製造することで高機能、高品質を実現。計装設計から販売、エンジニアリング・施工、保守サービス、省エネソリューション、設備の運営管理までを一貫した体制で提供し、独自の環境制御技術で、人々に安全かつ快適で、効率の良い執務・生産空間の創造と、環境負荷低減に貢献します。

業績の詳細は、P.33-35の「事業概況」をご覧ください。

▶▶ 日本の大規模建物向け空調制御分野における
パイオニア

▶▶ 建物のライフサイクルに即した
サービスメニュー

▶▶ データの蓄積を基とした
省エネソリューション

事業フィールド

オフィスビル／ホテル／ショッピングセンター／病院／学校／
研究所／工場／データセンター／官公庁建物／空港 など

検知する

センサ・計測機器

部屋の温度や湿度などを検知



◀ 室内形
温湿度センサ

設定する

ユーザーズオペレーション機器

温度や湿度など、ユーザーが望む室内環境を設定



◀ デジタル設定器

管理する

ビルディングオートメーションシステム

建物全体の室内環境やセキュリティ、設備や使用エネルギーの状態を監視・管理



◀ 大規模向け／
中小規模向け
BAシステム

守る

セキュリティシステム

建物・室内への人の出入りを管理



◀ 非接触IC
カードリーダー

制御する

調節器・コントローラ

建物設備・機器を最適な状態に制御

汎用コントローラ ▶



調節する

バルブ／操作器

建物を流れる冷温水や蒸気の流量を最適に調節



◀ 流量計測制御機能付
電動二方弁

総合ビル管理サービス

建物と当社センターを通信回線で結び、状態を24時間365日遠隔監視・制御、技術者による巡回点検、緊急対応



総合エネルギーマネジメントサービス

建物の省エネルギー支援事業(ESCO)をグローバルに展開し、建物の各種設備の更新・改善やエネルギー使用量の削減に貢献



ビル向けクラウドサービス

ビルのエネルギー管理や設備管理業務の効率化、快適な室内環境の構築を実現



アドバンス オートメーション(AA)事業

プラントや工場をはじめとする様々な製造現場における課題解決に向け、装置や設備の最適運用をライフサイクルで支援する製品やソリューション、計装・エンジニアリング、保守サービスを提供。生産に関わる人々との協働を通じ、先進的な計測制御技術を発展させ、安全で人の能力を発揮できる生産現場の実現を目指すとともに、お客様の新たな価値を創造します。

● 業績の詳細は、P.33、36-37の「事業概況」をご覧ください。

▶▶ プラント・工場向け商品の開発・生産から
メンテナンスまでを自社で行う
計測・制御メーカー

▶▶ 国内外において多岐にわたるアプリケーションで
ソリューション型ビジネスを展開

事業フィールド

[プロセスオートメーション分野] 石油化学・化学／石油精製／電力・ガス／鉄鋼／ごみ処理・上下水道／紙パルプ／船舶 など
[ハイブリッド／ファクトリーオートメーション分野] 食品／薬品／自動車／電気・電子／半導体／製造装置(工業炉、工作機械ほか) など

調節する

コントロールバルブ

現場に流れる気体や液体などの流量を最適に調節



▲調節弁／スマート・バルブ・ポジション

制御する

調節計

プロセスや装置、設備などを最適に制御



▲グラフィカル調節計



▲プロセス・コントローラ

検出する

センサ／スイッチ

確実な検出と高い信頼性で幅広い現場ニーズに対応



▲位置計測センサ ▲光電スイッチ ▲アドバンス UVセンサ ▲リミットスイッチ ▲地震センサ

計測する

プロセスセンサ

各種流量や圧力、液位、熱量などを計測



▲高性能発信器



◀スマート電磁流量計



▲天然ガスカロリーメータ

監視する

監視・制御システム

製造プロセスを監視

▶ 協調オートメーションシステム



▲デバイス・マネジメント・システム



▲オンライン異常予兆検知システム

プラント・工場向けサービス

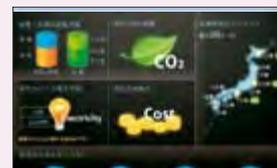
安全に操業できるよう、迅速かつ確実なサービスを提供

- ・ライフサイクルサポート
- ・保全サポート
- ・操業サポート
- ・設備診断サポート



エネルギーマネジメント

現場で使われる、エア、蒸気、冷水、温水、電気、ガスなどのエネルギーを最適制御することで、省エネルギーを支援、「見える化」や複雑な法規制などにも対応



ライフオートメーション(LA)事業

建物・工場・プラントで長年培った計測・制御・計量の技術と、心のこもった人の手による行き届いたサービスを、ガス・水道などのライフライン、住宅用全館空調システム、ライフサイエンスに関する研究、製薬、医療分野等に展開しています。

業績の詳細は、P.33、38-39の「事業概況」をご覧ください。

▶▶ 計量法に基づき、

**安定的な交換需要が発生する
ガス・水道メータ分野**

▶▶ 医薬品市場向け製造装置の開発・販売

**装置設計から製造・バリデーションまで、
一貫した製品・サービスを提供するLSE分野**

▶▶ 24時間365日、家中どこにいても

**快適で健康的な住空間を安心とともに
お届けする住宅用全館空調システム分野**

事業フィールド

[ガス/水道メータ分野] 都市ガス(一般・産業向け)/LPガス/水道(自治体) など
[LSE分野] 医薬品製造/ライフサイエンス研究開発/医療機関
[住宅用全館空調システム分野] 一般戸建て住宅

ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)分野

[アズビルテルスター有限会社]

製薬企業・研究所・医療機関向けに、凍結乾燥装置・滅菌装置やクリーン環境装置等を開発・エンジニアリング・施工・販売・アフターサービスまで一貫して提供

医薬品製造装置



凍結乾燥装置

▲パリアシステム

住宅用全館空調システム分野

[アズビル株式会社]

一般戸建て住宅向けに快適で健康、安心して暮らせる住空間を実現する全館空調システムを提供

吹出し口



リモートコントローラ



室内機・換気装置



電子式エアクリーナ



室外機



ガス・水道メータ分野

[アズビル金門株式会社]

一般向けに都市ガス・LPガスメータ、水道メータを提供するほか、警報装置や自動遮断弁といった安全保安機器、レギュレータ等産業向けにも製品を提供

水道メータ

▶表示部回転式水道メータ



◀電池電磁水道メータ

ガスメータ/レギュレータ



▲都市ガス用マイコンガスメータ



▲LPガス用マイコンガスメータ



▲高圧ガバナ

グローバルに広がる拠点間の密接な連携で、 世界中のお客様のニーズに対応します。

メーカーとして、自らがつくった製品やシステムに責任を持ち、お客様や社会の課題を解決するために、プランニングから開発、生産、エンジニアリング・施工、保守・サービスなどをトータルで提供。

国内外に広がる営業拠点と、開発や生産、サービス拠点が有機的に連携することで、お客様の現場の声を迅速に、かつ最適化してソリューションに反映し、azbilグループが一丸となって新しい価値の創造を続けていきます。



グローバル拠点一覧

<p>日本</p> <p>アズビル株式会社 アズビルトレーディング株式会社 アズビル山武フレンドリー株式会社 アズビル セキュリティフライデー株式会社 アズビル金門株式会社 アズビル京都株式会社 アズビルTACO株式会社 アズビル太信株式会社 株式会社 テムテック研究所</p>	<p>アズビルコントロールソリューション(上海)有限公司 本社: 上海</p> <p>上海アズビル制御機器有限公司 本社: 上海</p> <p>上海山武自動機器有限公司 本社: 上海</p> <p>アズビル香港有限公司 本社: 香港</p>	<p>アズビルフィリピン株式会社 本社: マカティ(フィリピン)</p> <p>アズビルマレーシア株式会社 本社: クアラルンプール(マレーシア)</p> <p>アズビルシンガポール株式会社 本社: シンガポール(シンガポール)</p> <p>アズビル・ベルカ・インドネシア株式会社 本社: ジャカルタ(インドネシア)</p> <p>アズビルサウジアラビア有限公司 本社: ダンマン(サウジアラビア)</p>
<p>中国</p> <p>アズビル機器(大連)有限公司 本社: 大連</p> <p>アズビル情報技術センター(大連)有限公司 本社: 大連</p> <p>山武環境制御技術(北京)有限公司 本社: 北京</p> <p>北京銀泰永輝智能科技有限公司 本社: 北京</p> <p>中節能建築能源管理有限公司 本社: 北京</p>	<p>アジア</p> <p>アズビル韓国株式会社 本社: ソウル(韓国)</p> <p>アズビル台湾株式会社 本社: 台北(台湾)</p> <p>アズビルベトナム有限公司 本社: ハノイ(ベトナム)</p> <p>アズビルインド株式会社 本社: ナヴィムンバイ(インド)</p> <p>アズビルタイランド株式会社 本社: バンコク(タイ)</p> <p>アズビルプロダクションタイランド株式会社 本社: チョンプリ(タイ)</p>	<p>米欧</p> <p>アズビル北米R&D株式会社 本社: サンタクララ(米国/カリフォルニア)</p> <p>アズビルノースアメリカ株式会社 本社: フェニックス(米国/アリゾナ)</p> <p>アズビルボルテック有限公司 本社: ロングモント(米国/コロラド)</p> <p>アズビルブラジル有限公司 本社: サンパウロ(ブラジル)</p> <p>アズビルヨーロッパ株式会社 本社: ザベンタム(ベルギー)</p> <p>アズビルテルスター有限公司 本社: タラサ(スペイン)</p>



azbilグループのグローバル体制

- 現地法人
- 開発機能
- 生産機能
- メンテナンスセンター

※ □ は、現地法人所在国
(中国・米国は所在都市)を表します。

欧州

グローバル
日本、米国、欧州を3局としたグローバル体制

高水準の保守・サービスをグローバルに展開

国内外に広がるサービスネットワークで、顧客密着・問題解決型のソリューションビジネスを展開。メンテナンス、サービスを通じてお客様の設備のライフサイクル価値を最大化するとともに、現場からの生の声をより付加価値の高いサービスの提供や新しい製品開発へとフィードバックしています。



自動調節弁の製造・メンテナンス施設を備えたアズビルサウジアラビア有限会社



台湾のバルブメンテナンスセンター

中国

タイ

グローバル
日本、中国、タイを3局としたグローバル体制

お客様に信頼を約束する生産体制

市場環境の変化への対応力とグローバルな競争力を兼ね備えた生産体制を国内外の各拠点で構築。azbilグループの各社・各部門の連携を強化することで開発から生産までのスピードを向上させ、高いレベルで均質化された製品を最適なコストで世界中のお客様に提供しています。



アズビルサウジアラビア有限会社

開発体制

グローバルでの技術研究・商品開発

本

米国

世界中のニーズに応える 研究・開発

日本をはじめ、アメリカやヨーロッパに製品・ソリューション開発のための研究開発拠点を設置。それぞれの地域特性を活かしながらお互いに連携し、「人を中心としたオートメーション」の理念のもと、お客様の価値創造、環境変化に対応できる最先端技術や新しい製品の開発を推進しています。



藤沢テクノセンター(日本)

研究・開発拠点

- [日本] アズビル株式会社(藤沢テクノセンター)、他4社
- [米国] アズビル北米R&D株式会社
アズビルノースアメリカ株式会社
アズビルボルテック有有限会社
- [欧州] アズビルヨーロッパ株式会社(ベルギー)
アズビテルスター有有限会社(スペイン)

生産体制

グローバルでの生産、地域特性に合わせた対応

主な生産工場

- [日本] アズビル株式会社(湘南工場、伊勢原工場)、他4社
- [中国] アズビル機器(大連)有有限公司、他1社
- [タイ] アズビルプロダクションタイランド株式会社

※ 国内の湘南工場・伊勢原工場は、2019年に湘南工場に集約する形で新工場を建設予定



アズビルプロダクションタイランド株式会社



アズビル機器(大連)有有限公司

4つの創造価値

「人を中心としたオートメーション」で、人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。

建物で、プラント・工場で、暮らしの中で、お客様とともに「人を中心としたオートメーション」で、社会的価値の創出を目指しています。

お客様と社会の課題

時代とともに変化する諸問題

事業成長のための新たな商品開発・生産



快適で安心、効率的な
執務空間、生産現場
健康的な住空間の実現



事業継続計画 (BCP)



水道やガスなど
ライフラインの安定供給



快適と省エネルギーの両立



環境負荷の低減



azbilの事業

BA事業

AA事業

● 事業の詳細は、P.18-20の「azbilの事業」をご覧ください。

現場に密着した一貫体制でお客様と

技術研究・商品開発 → P.40

サービス
→ P.44

エンジニアリング・
施工
→ P.44

人を中心とした
オートメーション

品質保証・安全 → P.46

人材

CSR経営 → P.49

コーポレート・ガバナンス → P.53



「計測と制御」の技術・製品を基盤としたソリューション

➡ 製品・サービスの詳細は、P.18-20の「fazbilの事業」をご覧ください。

事業活動を通じて 創造する社会的価値

お客様と社会の持続可能な発展に貢献

➡ 詳細は、P.26-27の「創造価値の事例」をご覧ください。

安心

安心して、
健康に暮らせる、
仕事ができる。



快適

いつでも快適に
過ごせる、
仕事ができる。



達成感

お客様と
新たな価値を
創造する。



地球環境への貢献

エネルギーを
最適に
管理・運用できる。



創造価値の事例

「人を中心としたオートメーション」で提供する4つの価値の事例をご紹介します。

安心

安心して、健康に暮らせる、仕事ができる。

安心事例 ▶ 太田油脂株式会社



ICチップを埋め込んだリストバンド

消費者の「食の安全・安心」を守るため、 食品工場にセキュリティソリューションを導入

コーン油やえごま油などの様々な食用油を製造・販売する太田油脂株式会社様では、近年、急速に高まる「食の安全・安心」への要請に応えるため、フードディフェンス*強化の取組みを進められていました。同社は製品の包装工程を担う工場新設を契機に、azbilグループの入退室管理システムにライブカメラなどを組み合わせたセキュリティソリューションを、グループ企業を含む3つの工場に導入。製造現場に誰がいつ入退室したかの情報や現場の様子をリアルタイムに把握できるようになり、各カメラの映像を見ながら現場側に適切な指示を出すことも可能となりました。取引先企業や一般消費者からも、「食の安全・安心」を実践する工場として、注目を集めています。

※食品への意図的な異物の混入を防止する仕組み

快適

いつでも快適に過ごせる、仕事ができる。

快適事例 ▶ アマリンプラザ



BEMS導入による設備機器の運転管理により、 省エネと現場スタッフの作業負荷軽減を実現

タイの首都バンコク市内の繁華街にあるアマリンプラザ様では、建物の省エネルギーに関するセミナーで、当時タイには普及していなかったBEMS*に興味を持ち、azbilグループに省エネ施策の検討を依頼しました。同社は施策実施によって期待される省エネ効果に加え、ESCOによる成果保証や投資面でのメリットなども併せて評価し、azbilグループの建物管理システムをBEMSとして導入。エネルギーの消費動向を可視化するとともに、熱源設備の最適な運転・制御により、ビル全体で年間約4%のエネルギー削減を実現しました。これまで空調設備が設置された現場でオペレータが手動で行っていた作業がシステムの画面上で操作できるようになり、現場スタッフの作業負荷も大きく軽減されました。

※Building Energy Management System

達成感

お客様と新たな価値を創造する。

達成感事例 ▶ 東京臨海熱供給株式会社



3地区のプラント監視システムを更新・統合 新運転支援システム導入でさらなる効率化へ

東京臨海副都心地区で地域冷暖房事業を行う東京臨海熱供給株式会社様は、異なる中央監視システムを導入していた台場・青梅南・有明南の3地区のプラントのシステムを、運転操作性の向上、効率化を目指し、更新・統合しました。3地区のメンバーからなるプロジェクトチームは、供給エリア内の熱供給を止めることなく、計5年にわたる綿密なシステム移行計画を立案・実施しました。さらに、エネルギー需要動向や気温・湿度といった気候条件、過去の運転実績データなどの情報に基づいて最適な運転の実現を支援するシステムの導入により、電気・ガスの両エネルギーを効率的に利用する“ベストミックス”を実現しました。

地球環境への貢献

エネルギーを最適に管理・運用できる。

お客様の現場におけるCO₂削減効果

オートメーションで

273万トン/年

“計測と制御”の技術を活かし、ビルディングオートメーション、アドバンスオートメーション、ライフオートメーションの各事業で、環境負荷低減に貢献しています。

エネルギーマネジメントで

28万トン/年

節電・省エネルギー・省CO₂を実現するエネルギーマネジメントソリューション ENEOPTTMにより、環境負荷低減に貢献しています。

メンテナンス・サービスで

11万トン/年

お客様の現場で培った知識やノウハウを活かして、azbilグループならではの付加価値型サービスの提供により、環境負荷低減に貢献しています。

商品・ソリューションの提供を通じ、 社会の環境負荷を低減

2015年度(2016年3月期)のお客様の現場におけるCO₂削減効果は合計で312万トンとなり、日本のCO₂排出量(約13億トン)の約1/500に相当します。なお、事業のグローバル展開に合わせ、算定範囲を海外へ拡大しています。

合計 **312**万トン/年

※ 環境負荷低減への貢献を定量的に評価するにあたり、(1)オートメーションにおける効果、(2)エネルギーマネジメントにおける効果、(3)メンテナンス・サービスにおける効果の3項目に分類し、お客様の現場でazbilグループの商品・ソリューションが採用されなかったと仮定した場合との比較で算定しました。なお、グローバルでの削減効果算定については、従来の算定方法及び一部独自の考え方にに基づいています。

算定における考え方の詳細は、Webページをご覧ください。

→ <http://www.azbil.com/jp/csr/value/contribution-to-the-environment/index.html>

1Q >>

2Q >>

2015年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

トピックス

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>4月21日 アズビル・アカデミー、「技術プロフェッショナル検定制度」で初の認定者表彰式を実施</p> <p>5月20日 上海アズビル制御機器有限公司、上海石化投資発展有限公司との合併契約延長に合意</p> <p>5月22日 湘南工場が「平成27年度 公益社団法人神奈川県環境保全協議会環境保全表彰」を受賞</p> <p>6月23日 アズビルを幹事社とするコンソーシアム、工場・事業場などの省エネルギー事業を支援する「エネマネ事業者」として経済産業省より採択</p> | <p>7月 7日 社会的責任投資の代表的指標『FTSE4Good Global Index』に9年連続で選出</p> <p>9月22日 アズビルテルスター、マレーシア・クアラルンプールに事務所を開設</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

製品／サービス関連

- 5月 7日** **LA** アズビルテルスター、研究向けデスクトップ型凍結乾燥装置を開発

デスクトップ型凍結乾燥装置



- 5月29日** **LA** 住宅用全館空調システムが東京電力の「スマートウェルネス設備推奨」に採用



住宅用全館空調システム(概念図)

- 7月 7日** **LA** アズビルテルスター、抗腫瘍薬生産品向けの垂直統合型凍結乾燥システムを開発



垂直統合型凍結乾燥システム

- 7月21日** **AA** 計装機器を監視する第3の目となる異常予兆検知システムを発売



異常予兆検知システム

- 7月23日** **AA** 高性能版スマート・バルブ・ポジションが第45回機械工業デザイン賞審査委員会特別賞を受賞

- 7月29日** **BA** 室内の快適性を維持しながら省エネを実現するCO₂濃度制御アプリケーションを販売開始

- 8月 3日** **BA** 中小規模オフィスビルの空調ニーズに応えるセル型空調システムを販売開始



セル型空調システム(概念図)

- 8月26日** **AA** アズビルトレーディング、小型サーモグラフィカメラ採用による温度情報を用いた検査システムを販売開始

サーモグラフィ良否判定システム(モニターカメラ)



(注) 日付は主に情報の発信日です。

3Q >>

4Q >>

10月

11月

12月

2016年

1月

2月

3月

- 10月 5日 新技術育成や将来を担う若者の支援を目的とする「アズビル山武財団の設立」を決定
- 10月 7日 第10回湘南国際マラソン協賛及び環境負荷低減推進をサポート
- 10月 8日 azbil みつばち倶楽部、社会福祉団体などに643万円の支援を実施
- 11月 9日 アズビル香港の中国・シンセン地区での生産委託方式による生産を終了

- 2月 1日 プロサッカーJ1クラブ湘南ベルマーレに協賛
- 2月 10日 環境配慮設計を推進する取組みが「第12回 LCA 日本フォーラム表彰」奨励賞を受賞

BA :ビルディングオートメーション事業 AA :アドバンスオートメーション事業 LA :ライフオートメーション事業

- 10月 5日 **AA** 産業システム用PLC統合コントローラが2015年度グッドデザイン賞を受賞



- 10月14日 **AA** 工場の設備管理業務支援アプリケーションの入力端末にAndroidを採用した新バージョンを販売開始

- 10月19日 **LA** アズビル金門、都市ガス用/LPガス用 超音波ガスメータを販売開始



- 11月11日 **AA** 高精度位置計測センサの最新モーションネットワークに対応した機種を販売開始



- 11月27日 **BA** ビル向けクラウドサービスにエネルギー管理者向け省エネ分析機能を追加



- 1月 12日 **AA** 安全計装システム用緊急遮断弁のスマートESDデバイスを販売開始



- 3月 4日 **LA** アズビル金門、小型・軽量・低騒音を実現した新型高圧ガバナを販売開始



- 3月 18日 **LA** アズビルテルスター、常温/常湿下で使用可能な滅菌システムを備えた次世代無菌アインレータを開発



- 3月 24日 **AA** 製造装置の予防保全に貢献する新世代グラフィカル調節計を販売開始

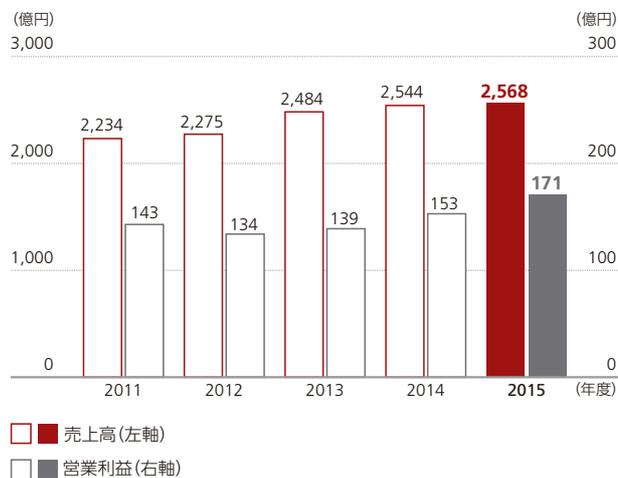


- 3月 25日 **BA** 川崎御幸ビルにおけるデマンドレスポンス実証で最大16.8%の電力消費削減を達成

財務・非財務ハイライト

アズビル株式会社及び連結子会社

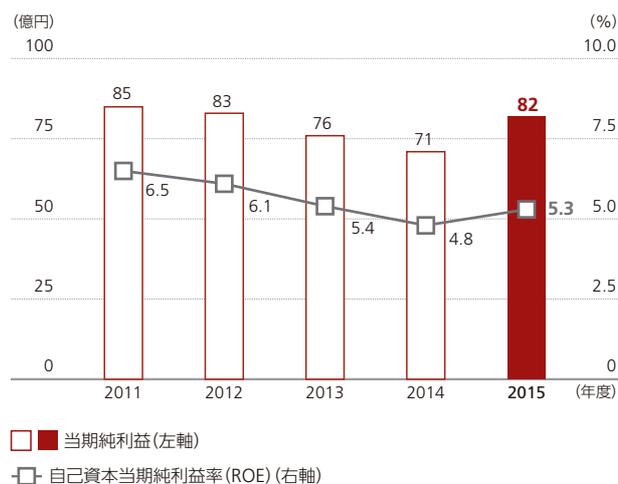
売上高／営業利益



海外売上高／海外売上高比率



当期純利益／自己資本当期純利益率(ROE)



1株当たり当期純利益(EPS)／株価収益率(PER)



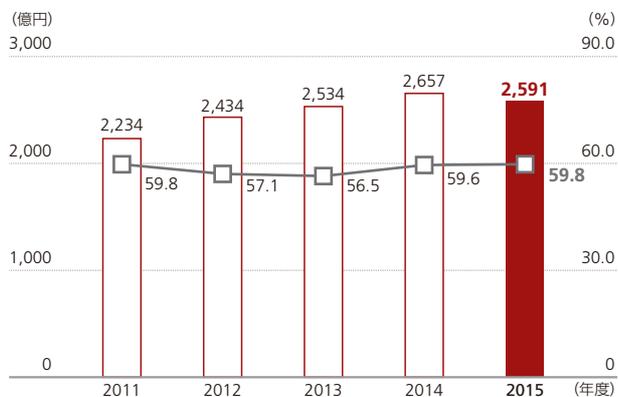
研究開発費／売上高研究開発費率



設備投資額／減価償却費

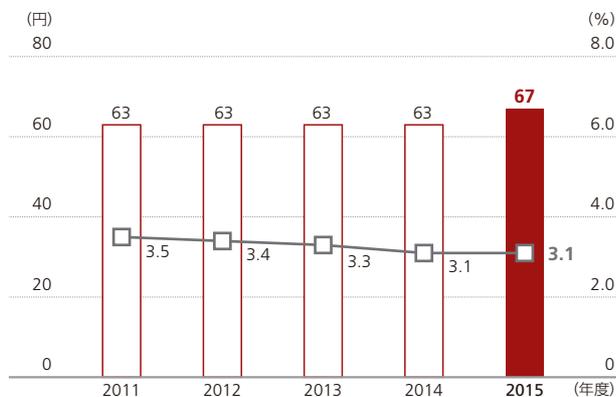


総資産／自己資本比率



■ 総資産(左軸)
□ 自己資本比率(右軸)

1株当たり配当金／純資産配当率(DOE)



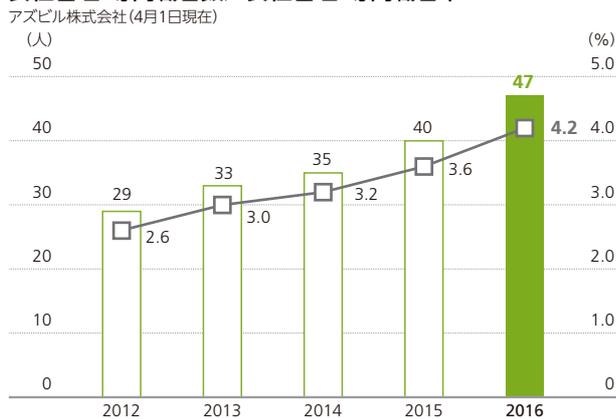
■ 1株当たり配当金(左軸)
□ 純資産配当率(DOE)(右軸)

連結従業員数



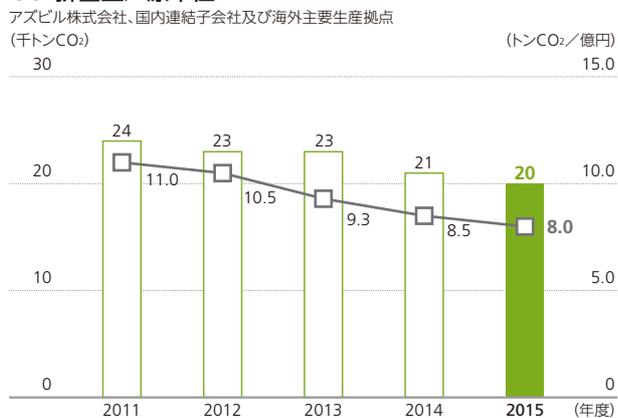
■ 連結従業員数

女性管理・専門職者数／女性管理・専門職者率



■ 女性管理・専門職者数(左軸)
□ 女性管理・専門職者率(右軸)

CO₂排出量／原単位



■ CO₂排出量(左軸)
□ 原単位(右軸)

電力使用量／原単位



■ 使用電力量(左軸)
□ 原単位(右軸)